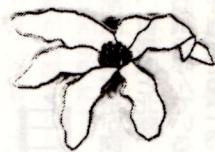


尾瀬の自然



発行 昭和62年10月15日

(題字 初代環境庁長官 大石 武一 氏)



サンカヨウの花(松田 美代子)

尾瀬の自然を守る会

分水計画の即時撤回を求める

ことしの夏、また東京の渋水が騒がれ七月一杯ブルも

お預けとなつたが、思つたところ「尾瀬分水」論議が登場した。

それも群馬県が六月定例議

会で早期実現を決議したとい

うのである。清水一郎知事も

「尾瀬分水は建設大臣に決定

権があるが、なんとかして人

口の多い関東地方に流域変更

尾瀬分水計画の即時撤回を求める申し入れ書

首都圏の水不足が深刻化す

る中、七月九日に閉会した群

馬県議会は、国に対し「水

源対策に関する意見書」の提

出を決めました。永らく議論

されてきた「尾瀬分水の早期

実現」などが盛り込まれてい

ます。

文書は、知事、県会議長の

ほか各党県議団にも提出。建

設大臣、環境庁長官に郵送。

尾瀬は本州最大の高層湿原

であり、燧ヶ岳、至仏山など

の周辺の山々とともに、自然

の宝庫であり、学術上貴重な

所でもあります。また、これ

らは微妙な生態系のバランス

の上に成り立っていることは、

幾度か行われた学術総合調査

で明らかです。そして、も

し一度人手によって破壊され

ます。尾瀬分水は尾瀬の電源開発

計画が明治三六年に明らかに

されて以来、大正から昭和に

かけて、そして現在に至るま

で折りに触れ数回にわたって

政治のそとにのぼって来まし

た。

しかし、その都度尾瀬を愛

し自然を愛する地元の人々や

学者・文化人などが、ときには

文部省や厚生省も加わって

尾瀬の分水に猛反対をしてき

ました。その結果、尾瀬分水

の計画は辛うじて実行されな

いで参りました。

尾瀬は本州最大の高層湿原

であり、燧ヶ岳、至仏山など

の周辺の山々とともに、自然

の宝庫であり、学術上貴重な

所でもあります。また、これ

らは微妙な生態系のバランス

の上に成り立っていることは、

幾度か行われた学術総合調査

で明らかです。そして、も

し一度人手によって破壊され

ます。尾瀬分水は尾瀬の電源開発

計画が明治三六年に明らかに

されて以来、大正から昭和に

かけて、そして現在に至るま

で折りに触れ数回にわたって

政治のそとにのぼって来まし

た。

しかし、その都度尾瀬を愛

し自然を愛する地元の人々や

学者・文化人などが、ときには

文部省や厚生省も加わって

尾瀬の分水に猛反対をしてき

ました。その結果、尾瀬分水

の計画は辛うじて実行されな

いで参りました。

尾瀬は本州最大の高層湿原

であり、燧ヶ岳、至仏山など

の周辺の山々とともに、自然

の宝庫であり、学術上貴重な

所でもあります。また、これ

らは微妙な生態系のバランス

の上に成り立っていることは、

瀬を私達の世代に終わらせる

ことなく、その自然を本来の

姿で私達の子孫に伝えるため

には、尾瀬そのものは言うま

でもなく、尾瀬周辺の自然環

境も守らなければなりません。

尾瀬分水が流域変更を目指す

ものであるだけに、予測の付

け得ない影響が現れると考え

られます。また、そのための土木工事が行われる事になれば、現場での直接的な破壊は

言うまでもなく、周辺の自然

環境の破壊が急速に進行する

事は明らかです。

今、首都圏への人口集中が

いくいろの面から見直されな

ければならないと言われてい

る中で、東京周辺に集まる人

だけに水を供給するのに役立

つ尾瀬分水はこの流れにも逆

行するもので、多くの問題を

含んでいると言わざるを得ま

せん。

水不足を解消するため

に求められているものは、反

自然的な尾瀬分水計画を推進

することではなく、人口の東

京への過度の集中を防ぐ対策

とともに、水資源確保のため

に、森林を荒廃から守ること

であります。

以上のよう見地から、群

馬県知事並びに群馬県議会が

提出されようとしている「水

源対策に関する意見書」を直

ち白紙撤回されるよう申し入

れます。

一九八七年八月三日

群馬県自然保護団体連絡協

会

代表 高橋 義男

福島県自然保護連盟

代表 星 一彰

栃木県自然保護団体連絡協

会

代表 藤原 信

尾瀬の自然を守る会

代表 岸 好人

川通也秘書課長が応対。県自

然保護団体連絡協議会(高橋

義男・代表)の飯塚忠士事務

局長は「首都圈が水不足だと

できるはず」としたうえで〇

を申し入れた。

これに対し長谷川課長は

「尾瀬は学術上貴重な湿原で、

一度破壊されると復元は不

可能。尾瀬分水のための土木工

事は周辺の自然環境を破壊す

る」として、県議会が国に提出

した「尾瀬分水計画の〔〕

事に伝える」と述べた。

（毎日新聞）八月四日号群馬版）

水源対策に関する意見書 白紙撤回申しことく

首都圏の水不足が深刻化す

る中、首都圏と北陸、東北各

代表と、群馬、栃木、福島

県の自然保護団体は三日、

見世」を白紙撤回するよう申

し入れた。

（毎日新聞）八月四日号群馬版）

恒例のゴミ持ち帰り運動

ミズバショウ・シーズン最初の土・日の早朝、例年のように沼田駅にてゴミ持ち帰り運動が展開された。

五月三十日（土）には、私たち尾瀬の自然を愛する会、利根村青年団有志等七名が参加して、JR尾瀬号ほか三本の列車からの入山者お

よそ三〇〇人に、ゴミ袋と尾瀬診断マップ（会報四三号）を配りました。翌三十一日（日）

も、同じく沼田駅で七名で約四百人に対し呼び掛けを行いました。

さらに、群馬支部は、六月六日（土）未明、大清水口で国立公園協会、県観光課、山小屋組合の人たちと一緒にゴ



5月30日未明の沼田駅構内

ミ持ち帰りを訴え、尾瀬診断マップを配りました。マップは好評でした。（奥平貞昌記）

この六日、七日は、御池・沼山峠口で東京の会員たちも同じ行動を行っている。

尾瀬診断マップは、尾瀬にやつてくる若い人たちに向け

て、イラストで分かり易く尾瀬の問題点を説明しよう、という趣旨で今回はじめて試みたものであるが、すでに尾瀬の山容を知る人にはいいが、全く初めて尾瀬を見る人にはよくわからない、という意見も出ていた。

第九回尾瀬自然保護指導員養成講座

現地研修を終えて

幹事 早川 秀則



去る八月七日より三泊四日の日程で、指導員養成講座の現地研修が行なわれた。担当幹事の一人としては、事前のPRの方法が大きな課題であったが、新聞広告や地元群馬のラジオ放送、或いは直前になってしまったものの『山と溪谷』八月号への掲載等もあり、一七名の応募があった。応募者は、女性四名を含み、その職業は、教員・公務員および学生が大半を占めた。

当日は、欠席者一名を除く一六名でスタートした。

講師三名が受講生を三班に分けて引率に当った。第一日目は、尾瀬沼の取水口、打ち寄せるコカナダモ、或いはビジターセンター等の見学を行な

い、沼山峠より松枝岐へと下った。御池の駐車場の説明に始まつた第二日目は、広大なブナ林を中心にして、傾斜湿

とその貴重さについて勉強した。その日の宿となつた温泉小屋で昼食を食べた後、見晴の見学を行ない、バイブライン布設、山小屋周辺の富栄養化やゴミ処理問題、キャンプ場施設等、受講生の方々が普段気が付きにくく点を見てもらえたように思う。夕食前、小屋の前で行なつた受講生相互の意見交換では、かなり活発な話し合いが行なわれ、受講生の意識の高まりが感じられた。第三日目は、尾瀬ヶ原を見学して、富士見峠に上つた。あの歩きずらかつた登山道がすっかり整備され、また、峠で多くのマイカーを見た時は、私自身も大いに驚かされた。アヤメ平の慘状を見学しつつ、鳩待峠を経て戸倉へと下つた。仕事の都合で私はこの日で講座を離れたが、受講生の皆さんと知り合いになれることに加えて、皆さんとの意見交換を通して学ぶところは大きかった。幹事の一人として、不行届きの点が多くあったと思うが、来年度以降も養成講座を是非とも充実させてゆきたいものです。

（参加者のレポートは、次号に掲載の予定です。）

「ダム群」尾瀬に迫る

水問題シンポジウムに参加して

さる八月二十九日・三十日
の二日間、上越国境のダム群
の見学と水問題シンポジウム
が開かれた。「信濃川・利根
川の水問題を考える会」が主

催したもので、関東地方の水
不足が叫ばれ、尾瀬分水や信
濃川分水が問題にされている
折りから、バスによるダム見
学の一〇〇名、シンポジウム

に三〇〇名集まつた。
当会から飯塚忠志、平井敬
治、青木安弘、連絡協の今井
勝俊先生と四人参加した。

JAPIC計画

この計画は、昭和五十四年
七月日本建設業団体連合会が
まとめたもので、その年の十
月設立された日本プロジェクト
産業協議会（JAPIC）

ジヤピック、会長は斎藤英
四郎（経団連会長）に引き継が
れた。

新潟県小千谷市は、信濃川
が新潟平野へ流れ出る喉もと
にある。ここに堰（すでに
妙見堰）を設け、群
半分できあがつている。）をつ
くり、ここからバイブを使い、
水を揚げ、上越国境に近い黒
又川に巨大ダム（十三億トン
の水を貯める。）をつくつて、
そこに信濃川の水を貯め、群
馬側の矢木沢ダムに落とそう
といふ計画である。

この巨大ダムは、高さ二十五
mの日本一となるが、同時
に最大の揚水ダムとなる。自
然に流れ込む水など問題にせ
ず電力によって水を揚げるの



参加者に尾瀬の問題を説明する飯塚群馬支部長（湯の小屋）

である。この電力に柏崎の原
子力発電を使おうというわけ
で、原発の存在理由もつく一
石二鳥である。

計画の現場にバス二台で登
った。すでにある黒又川第一
ダム、その上流の第二ダムを
も底深く飲み込んで、尾根と
尾根を結ぶような水がめが想
像される。

飯塚氏と私が新潟テレビの
インタビューを受けた。飯塚
氏がJAPIC計画と尾瀬と
のかかわりを語り、私は一般
論としてもうこれ以上の開発
はごめんだ、日本中をコンク
リート固めにしなければ気が
すまないのか、自然の水の流
れを逆流させるなんて、それ
が技術だと、とんでもない、
人類のおもいあがりだ、と言
つたが。

資本の論理は、ひたすらな
膨張であるし、満州事変では
ないが、虚偽の水不足をキヤ
ンペーンして世論操作を行い
国の予算から一兆円という大
プロジェクトを引き出そうと
しているのに違いない。

中曾根首相がレーガンに約
束したという五兆円の内需拡
大政策のひとつとして、与野
党の支持を得る可能性は十分

にある。

尾瀬との関係

このJAPIC計画における
最上位のダムは、北ノ又川
ダムである。奥只見ダム湖で
ある銀山湖に流れ込む支流の
ひとつで、群馬側の八木沢ダ
ムである。奥只見ダム湖で
川ダムと八木沢ダムの中継ぎ
を行なうダムである。

奥只見シルバーラインの長
いトンネルを銀山平にぬけ、
右に行くと美しい清流に出会
う。北ノ又川である。橋の上
から見下ろすと、澄んだ川底
に魚影が数匹ゆつたりと泳い
でいる。橋から上流は永久禁
漁区だという。奥行きの深い
渓谷である。ガスに包まれて
最奥までは見えないが、ここ
がダムになり殺風景なコンク
リートに視界をさえぎられた
ら、生態系は破られ禁漁区な
どなんの意味もない。

ただ銀山湖のすぐ上である
ため、信濃川だけでなく只見
川からも揚水が十分可能であ
る。東電の尾瀬分水計画より
現実感がある。尾瀬保護から
くる反対論をかわす位置にあ
るからだ。

昭和62年10月15日

夜の湯の谷村国民宿舎でのシンボジウムは、会場に溢れるほどの人で、この問題への関心の高さが知られる。

発言者も多く時間が十時を越える。最後に手を挙げて飯塚氏が発言を求めた。尾瀬が

大切であること、ダム計画から守らなければならないことを訴えた。尾瀬の周りはダムに包囲されていること、そのことが危険なのだと。

尾瀬は、すでに沼からの取水で沼周辺の自然が破壊された苦い経験を積んでいる。水利権を持つ企業のしたたかな手は、いつでも機会をねらっていることを忘れてはならないだろう。

信濃川においても、小千谷発電所は朝夕の山手線ラッシュに合わせて送電しているJRの発電所である。すでに信濃川分水は行われているのである。このうえ水を取つて全国有数の水量豊富な川が、その辺の小川になつたのでは世界に笑われる。水利権の中に含まれている、と私は思うのだが、今日のように水路から水路へ水が消えて川に流されることは、水利権解釈に重大な

故意の誤解があると思う。

当局者に猛省を促したい。

さて、シンボジウムの翌日は、群馬側の藤原、須田貝、八木沢、奈良俣の四ダムを見学した。

この中で、八木沢ダムは揚水ダムで下の須田貝ダムから水を揚げている。今年の渇水で報道された水のない八木沢

ダムは、雨が降らないからないのでではなくて、水を落とした後だからなかつたのだ。今回見学時、満々と水をたためる藤原、須田貝、八木沢の三ダムを見て、作られた渴水だと確信できるのである。

そのことは、バスの中で説明に立った東京水道労組の人達が、数字をもつて語った実情と付号する。

最後に、ロックヒルダムで日本で最も高い積み上げとなつた奈良俣ダムであるが、すでに完成は間近だ。尾瀬分水の受け皿として位置づけられているこのダムの完成は、今後尾瀬にとって重大な脅威となつてくるだろう。

信濃川においても、小千谷発電所は朝夕の山手線ラッシュに合わせて送電しているJRの発電所である。すでに信濃川分水は行われているのである。このうえ水を取つて全国有数の水量豊富な川が、その辺の小川になつたのでは世界に笑われる。水利権の中に含まれている、と私は思うのだが、今日のように水路から水路へ水が消えて川に流されることは、水利権解釈に重大な

長)は、必ず国への働きかけを行なうだろう。

群馬県は、水源県ではあるが、水利権もなく高い水道料金を払わされているのに、お人のよろしいことだ。群馬公明党・社会党もこれに加担していることは、ほとんど想像を絶する。

人間は欲望の塊ではある。しかし天地の境を見分ける知恵は持ち合わせている。飽食過ぎるとそれも見えなくなるのだろうか。尾瀬沼取水で足りず尾瀬ヶ原取水も、というのはもはや泥棒の論理だとうはかはない。

もしかりにこれを許せば、次の時代には尾瀬ヶ原水没を要求するだろう。尾瀬沼取水を許した亡き武田久吉博士がいま存命なら、話が違うと怒つたに違いない。

「あのとき尾瀬ヶ原には手をつけないと言ったじゃないか」。それに対して「あのときと今と時代が違うよ」。

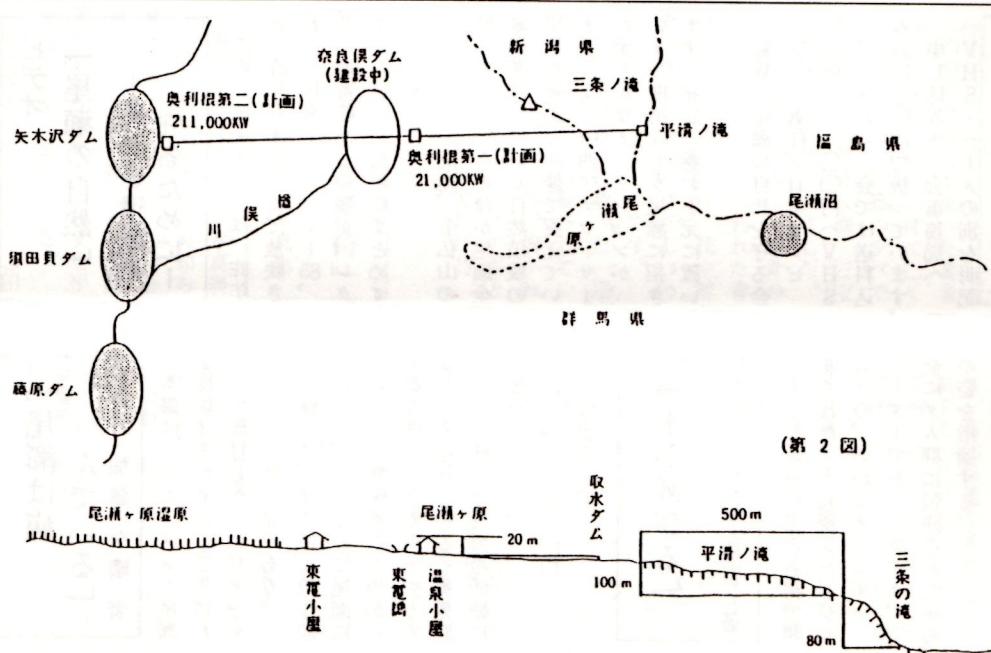
歴史というものはそういうものと腹に入れておかなくてはならない。

平滑の滝取水を絶対に許すわけにはいかないのである。

(青木記)

尾瀬分水計画

(尾瀬水利対策期成同盟会資料から)



水彩写生旅行

(二) 大下 藤次郎

(日本水彩画家)

尾瀬沼

こゝに止まるこゝ五夜、その間出来るだけスケッチをした、あまちに材料の多いので、落ついて二枚の繪を作つて満足して歸るとは出来ぬ、よいと思ふ處は一つ残らず書いてゆきたい、一日に七八枚も寫生した時もある、高原に咲いてゐる花ばかり集めて書いても、一月や二月の書材に苦しむことはない。

六日目にこゝを去つたが、此上留まるべき時日と用意のないのが如何にも殘念に思はれた、私は出来るところなら此地に完全な小屋を作つて年々来て研究したい、そして世の風景書家に此地を紹介したいと思ふ。旅行中の有様は、次項尾瀬日記に就いて承知せられた。

尾瀬日記

七月十二日 晴

『尾瀬沼』、『尾瀬ヶ原』、これ等が話題になつて、夜をそく迄話し合つたり、地圖を展げたりしたのは、ツイ二三ヶ月前だつた。モウ今日は其出發の日だ。

同行者は大下先生、赤城、八木両君と、僕、合せて四人連れ。

午前五時半に先生のこゝへ集まる筈なのに、赤城君と八木君はやつて來ない、ドウしたらうど二三度さがしに行つたが見えない、心配しながら、先生と二人で先きへ『目白ステーション』送出かけた。両君は汽車の時間にやつと間に合つた、然し大急ぎで駆けて來たので八木君はモウ足が痛いと云ふ。痛いのも無理はない二人とも五六貫も有らうと思ふ荷物を身體に着けて居る、其姿は實に異觀だ。こゝ迄來る時には僕はかりコソナ重いのかと内々心細かつたが、此の二人を見て幾分か慰められた。それも其餘何しろ『尾瀬ヶ原』で世帯を持たうと云ふのだもの。(直)前日真夜中に去る處から電報が來て、その用事を差支なく運ぶため、三時頃から起きて、出發前に

ビデオ

「尾瀬の自然」

一美しき遺産を
守るためにー

このビデオテープは、昨年

と昨年日本テレビで放映された「尾瀬ドキュメント85、86」の番組を、加藤ディレクターが当会のためにまとめてくれたものです。

アヤメ平の荒廃、至仏山の踏み荒らし、そのほか尾瀬全域に進行している自然破壊の現状を確かな映像で捉えています。また中西アナウンサーの柔らかなナレーションが、いま一度あなたを尾瀬に招きます。ぜひ一巻お手元に置いてください。

大月書店 刊行
四六判・一五〇〇円

「水が滅びる」

高杉 晋吾 著

監修／尾瀬の自然を守る会
制作・著作／日本テレビ
定価 六八〇〇円(VHS
・ベータ共) 会では送料込
み六〇〇〇円で扱っています。

申し込み先 会事務局へ
(VHS・ベータの別を明記
し、代金とも現金書留で申し
込んでください。

「尾瀬は病
んでいる」

加藤 久晴 著

本書は、ドキュメント尾瀬

を撮影するために、二年にわ
たつて取材したテレビディレ
クターの取材記録である。

加藤氏は、すでに十数年前
からテレビマンとして尾瀬に
係わり、自然保護の立場から
番組を作つてきた。そのうん
蓄が込められている。奥鬼怒
スババ林道や当会の活動に
も触れている。

先ごろ新潟県湯の谷村で開催された「水問題シンポジウム」の、いわばオピニオン・リーダーであつた著者は、完
全にダム群に包囲された尾瀬の姿を指摘する。
首都圏の大改造と信濃川分
水計画も含めて、水問題から
尾瀬の危機を分析。

三一書房刊・一五〇〇円

昭和62年10月15日

長い／＼手紙を三四本書いた。さて時刻になつてやつて來たのは直（森島）さんばかり、停車場で待つことにして家を出たが、背中の荷物は馬鹿に重い、門口で捨て、仕舞ひたくなつた。

發車の二三分前に、ヤット泰（赤城）さんと定（八木）さんが汗みぢろになつて駆けつけた、今朝寝過して大に慌てたさうな、そしてモー汽車は間に合はないと覺悟してゐたそうな。（思）

汽車は『目白』驛員の御蔭で『赤羽驛』で一寸までついた許り、マア／＼無事で、車中では八木君の『バイナップル』の御馳走も出る『秩父』の山々も賞する『熊谷』土手も眺める、十時過ぎには『前橋』驛に着いて直に鐵道馬車に乗り換へた。馬車は云ふ迄もなくマッチの箱の様な小さなもの、先生などは頭がつかへそう、或はつかへるかも知れぬ、八木君は乗換の時一人残つて居た爲、車臺が動き出したので入口へ頭をぶつけるやら大騒ぎ。

『濱川』に近づくに従つて景色は面白くなつて來たが、何だか空模様があやしくなつて、遠くでガロ／＼鳴つて來た『阪東橋』を渡る頃『榛名』の山はモウ雲足が切れさうだが、河の對岸——ヒヨロ高イ松並木も山麓森林も早や雲の下、夕立の景色で有る、豆の様に見ゆる人が駆け出す哩と見てゐたら、既に雨は車の窓を打つ。

『榛名』には日が當つて。

『濱川』からは別に馬車を備ふて『沼田』迄行かねばならぬ、茶店で聞くと今出たことだと云ふ、馬車屋へ行つてかけ合つたがマア時間迄モウ一時間半も待つてくれどねかす、困つたものだと、元の茶店へ歸らふとする後からモシ／＼と呼ぶ者が有る、馬車なら私の方に御座いますと云ふので大喜び、早速ソレへ乗つた。今度の馬車は四人乗りで頗るハイカラなものだ、四人は此ハイカラ馬車の中で弁當を食ふ、日は容赦なく照る、雲は一つもない、紫の山は紫の山に重なつて居る、トンネルを二ヶ越して、雪の下が一面に咲いてる中に立つ巨樹の側を走つて三時頃『沼田』の恵比須屋に着した。（直）

『前橋』と『濱川』の間『阪東橋』の邊は中々景色がよい、頗る壯大である。

『濱川』から乗つたのは上等幌馬車式で、前後差向ひ、横から乗るやうになつてゐる、泰さんの喜ぶこと非常で、こんな馬車は生れて初めて乗るといふて大得意であつた。馬車の中で晝食をやつた。握めし、海苔巻・サンドウイッチなどが出る、味むらくは咽喉を澀ますお茶がない。『利根』の橋を渡ると二三の料理屋がある、下から餅菓子を盛つた皿を差してゐる男がある、二階から若い女が手を伸したが届かぬ、終には家根の上まで出て来て恐る／＼皿を受取つてゐた。（直）

「同じ」とみずみずしい感動で言い続けたい

青地 晨 著

当会の会員でもあつた著者は、三年ほど前に75才で亡くなられました。尾瀬の夕べで

寺池の話をしてくれました。

この本を読んでみて、反骨の

ジャーナリストと言われた青

地さんの本当の心は、花や植

物を愛し自然が好きでしょ

がなかつたと思うのです。

「山と溪谷」に載つた「尾

瀬への願い」も収録されてい

ます。やさしい文体で書かれ

たエッセイ集で、人生の書と

もいえます。社会思想社刊

定価 一八〇〇円

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は

日本における自然保護運動の發祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する“市民の会”です。

昭和四十六年八月尾瀬を通じて、建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら、

会員の努力によつて運動が続

けられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さ

な力でも合せれば、一粒の雨

滴が大河になるよう、大きな

力となります。どうぞ、この、

運動にご参加下さい。そして、

日本の自然を守り、いつまで

も豊かな人間生活を送ろう

ではありませんか。

会の活動。会報「尾瀬の自

然」を発行。自然観察会

。自然保護指導員養成講座

。その他、自然保護に関する

調査研究、講演会など。

入会の方法。年会費（1月

～12月）※会員二〇〇〇円、

学生会員（高・大学生）一、

〇〇〇円を会の会計へ振替で、

必要事項（職業・電話連絡先、新規・継続の別）を記入の上

お納め下さい。

会の会計・松田美代子（〒260

千葉市作草部八六四一五〇三

電話〇四七二（51）九五八七

振替番号・東京6-138023

有楽町マリオンでの写真展について、前々号でお知らせしたが、これは氏（当会会員）の二十数年にわたる尾瀬撮影の粹を収めた。序文を平野長英さんが書いている。

板の葉書房刊・四〇〇〇円

昭和62年10月15日

2/7	幹事会、二月例会
新幹事と各担当部門、会計	の計画立案、他
10	尾瀬の自然42号 発行
14	行事企画委員会
22	総会、上野動物園見学
3/7	幹事会、三月例会
14	「鳥の棲む環境」(早川) 幹事会(懇話会提言についての意見交換)
17	懇話会小委員会 内海 青木、坂井
4/11	幹事会、四月例会
「水の汚れ」(武)	12 観察会(横浜自然観察の森) 武他二十五名
4/15	「当会十五年の軌跡」 が山溪五月号に掲載される
5/9	幹事会、五月例会
22	懇話会 内海・岸・他 環境週間での活動と尾瀬入山者指導の件、43号編集会議
29~31	沼田駅頭でのゴミ持ち帰り運動へ生方・古見他 研究観察会・会津
6~7	鬼怒川線利用による松枝岐からの尾瀬入山(河内他7名)

行 事 予 定

★10月24日(土)
奥鬼怒スバーリ道
(群馬側) 現地調査★11月29日(日)
第五回 尾瀬をめぐる自然
保護シンポジウム

大清水集合 午前10時
(参加希望者は、群馬支部長・飯塚まで連絡してください。
さい。TEL 0272(6)2543)

時間 午前九時三十分から
場所 宇都宮大学農学部
(これまで栃木、福島、群馬三県の自然保護団体が集ま
つたが、今回は新潟からも水
問題にからんで参加の予定。
当会としては、先日行った
至仏山調査の結果を踏まえ問
題提起をする予定。多くの会
員の参加を期待します。)

★11月15日(日)
公開 「第九回尾瀬自然保護指導員養成・室内講座」
講師 群馬県立女子大学教 授 斎藤 晋先生
時間 午後一時から
場所 農大一高・生物教室
(どなたでも、お気軽に参
加してください。)

8/3 「尾瀬分水計画の即時
撤回を求める申し入れ書」を
待岬口(飯塚・梅山他)

文の検討と意見交換)
の検討と意見交換)
尾瀬取材の案内指導 飯塚他
夏期行事等について
引率指導 武・梅山、伊藤
高井、畑・反町、飯塚・生方

7~10 第九回尾瀬自然保
護指導員養成講座・現地研修
受講者十五名。講師・飯塚、
坂井、早川。

18 懇話会 内海・青木
29~30 水問題シンポ・新
潟に参加。飯塚、青木、平井

11月7日(土)
群馬県知事、県議会他に提出
群馬県自然保護連絡協、他二
団体と共に。飯塚、他

12月5日(土)
農大一高・生物教室
(会の活動について、いろ
いろ話し合っています。会の
足腰を強くするためには、日
ごろの交流が大切です。お出
掛けください。)

例会のご案内

カンパのご報告



安藤 孔一 黒田 安太郎
中田 定良 高井 富二
京極 実 木俣 陽吉
高間 徳子 善積 勇
広神(旧姓・畠山) 典子
中島 たみえ 荒木 鶴代
野村 かおり 矢沢 勝之
森脇 美武 匿名 希望
(8/18現在) 計58,000円
以上の方々からカンパをい
ただきました。ありがとうございました。

入会申し込み書 年月日
1年会費2,000円を添えて申し込みます。(学生1,000円)

名前(ふりがな)

男女

現住所 〒() 年月日 自宅電話 - -
MTS 勤務先 電話 - -

注 この入会申込書は、前頁の会計あてお送り下さい。

事務局	編集	発行	発行者	発行日	尾瀬の自然を守る会
03-425-4481	156	156	青木・水沼	昭和62年10月15日	第44号
内43	区桜3-33-1	竹田・上野	岸好人		
東京農業大学第一高	東京都世田谷				
等学校生物教室内					

この申込書は、前頁の会計あてお送り下さい。